

# 子どもと読み味わう詩の授業(三〇六年) 「雲」(山村暮鳥)

大阪府羽曳野市立羽曳が丘小学校

村田 明

## 詩の授業は楽しい

ある研究会に参加して、初めてこの詩に出会った。

雲

山村暮鳥

おうい雲よ  
ゆうゆうと  
馬鹿にのんきさうぢやないか  
どこまでゆくんだ  
ずっと磐城平の方までゆくんか

「じゃあ、その雲に届くように声をだして下さる。」

「この人は雲がうらやましいんですね。それではそのような気持ちで読んで下さい。」

といった教師の言葉で、子どもたちの読み声

がどんどん変わっていった。子どもたちが詩の世界へどんどん入っていったのだ。

この時、私は初めて詩を読み味わうことの楽しさを知った。それ以来、私は毎年この詩を授業している。

## 子どもたちと読み味わう基本として

(1) 言葉を調べる。

・ ゆうゆう (悠悠) はるかで限らないさま。  
ゆっくりと落ち着いているさま。十分に余裕のあるさま。

・ 馬鹿に……とっても。すごく。

・ のんき (暢気、呑気、暖気) のんびりしていること。心配のないこと。

・ 磐城平 (いわきだいら) 福島県いわき市の地名。旧平市。現いわき市の一部。

(2) 作者について調べる。

〈山村暮鳥〉

・ 明治十七年 群馬県に生まれる。

・ 明治三十五年 キリスト教の洗礼を受ける。

・ 明治四十四年 福島県平町の講義所に転任。  
・ 大正二年 第一詩集「三人の処女」を刊行。  
結婚。

・ 大正七年 咯血して病臥。

・ 大正九年 茨城県に転居。

・ 大正十三年 十一月、詩集「雲」を校了。

十二月、永眠。

・ 大正十四年 詩集「雲」刊行。

(3) 私の読み

作者はどうして雲に呼びかけたのだろう。どこから呼びかけたのだろう。また、どんな雲なのだろう。

作者は仕事で忙しかったのだろうか。手を休めてふと窓から外を見ると、青空に白い雲がゆっくりと流れている。いかにも『ゆうゆうと』『のんきさう』に見える。「いいなあ、お前は。のんきさうで。オレもお前のようになりたいよ。」と言いたかったのだろうか。

あるいは、作者は病氣だったのかもしれない。

い。病床から窓の外に流れる白い雲を見たの  
 かもしれない。

いずれにせよ、作者は雲がうらやましかつ  
 たのだ。

次に気になるのが、『磐城平の方までゆく  
 んか』である。作者も磐城平に行きたいのだ  
 ろうか。「いいなあ、お前は。オレも磐城平  
 に行きたいよ。オレのかわりにオレの気持ち  
 を運んでいってくれ。」と自分の気持ちを雲  
 に託したのだろう。作者にとって大切な人が  
 磐城平にいたのだろう。

### 子どもたちと読む計画

(1) 通し読みをする。

① 読めるかどうか、声に出して読んでみま  
 しょう。

② 読めない字はありましたか。

・馬鹿に

・磐城平

③ 書き表し方がおかしいと思ったところは  
 ありませんか。

・のんきさうぢやないか

・ずつと

④ すらすら読めるように繰り返し読みま  
 しょう。

⑤ 意味のわかりにくい言葉はありません  
 か。

・ゆうゆうと

・馬鹿に

・のんき

・磐城平

(2) 内容を想像しながら読む。

① どんな景色が思い浮かびましたか。

(学年によっては、「どんな雲が思い浮かび  
 ました。」と聞いてもよい。)

・ 青空に白い雲がうかんでいる。

・ 大きな白い雲がぼっかりと浮かんで  
 いる。

・ ゆっくりと動いている。

② では、その雲に呼びかけるように読んで  
 みましよう。

③ 作者は、どうして雲に呼びかけたので  
 しょう。

・ 雲が気持ちよさそうだったから。

・ のんびりしているから。

・ 自分も雲みたいなのんびりしたいと思っ  
 たから。

・ 雲ののってどこかへ行ってみよう。

④ 雲がうらやましいのかな。そんな気持ち  
 で読んでみましよう。

⑤ 雲がうらやましいと思う作者は、どんな  
 生活をしているのでしょうか。

・ 仕事で忙しい。

・ 詩を書くのになかなか書けない。

・ 病気で寝ている（高学年では出てくるだ  
 ろう）。

⑥ すると作者はどこで雲を見たのだろう。

・ 仕事しているとき窓から見た。

・ 詩が思いうかばなくて散歩しているとき  
 見た。

・ 散歩の途中で川原で寝ころんだとき。

・ 病気で寝ているとき窓から見た。

⑦ 作者になったつもりで読んでみまし  
 ょう。

※⑧ ところで、磐城平に何かあるのだし  
 ょうか。（高学年では聞けるだろう。）

・ ふるさとじゃないかな。

・ お母さんがいるかもしれない。

・ 大切な友だちがいるのかな。

・ 会いたいけど忙しくて会えないから雲に  
 託している。

・ 病気で行けないから雲に託している。

⑨ 今日学習したことを思いうかべながら読  
 みましよう。

(この展開の仕方は、あくまでも参考の  
 一つに過ぎません。)

むらた あきら 子どもの学ぶ心と力を育む授業を  
 めざして、国語を中心に実践研究を続けている。